

第2部 高校生の部

I 調査概要

高校生の意識と行動を尋ねた調査票調査の結果に基づき、インターネットを中心にしたメディアと非行との関係を考察する。調査では、高校生に、メディアと非行との関係を直接尋ねるのではなく、メディアと非行を別個に尋ね、その後に両者の関係を探るという方法を採用した。また、インターネット以外のメディアについても尋ねたのは、その方が、インターネットの非行への影響を相対的に評価でき、インターネットと非行の関係を、メディアと非行という大きな枠組みの中に位置付けることができると考えたからである。なお、調査の概要は、次のとおりである。

1. 調査対象者

茨城県立境高等学校及び東京都立杉並高等学校の2年生及び3年生

2. 調査実施

2001年10月5日（茨城県立境高等学校）及び10月17日（東京都立杉並高等学校）

3. 回収サンプル

回収サンプル数は以下の通りである。

1,045（男：535、女：510）

——茨城県立境高等学校：521、東京都立杉並高等学校：524

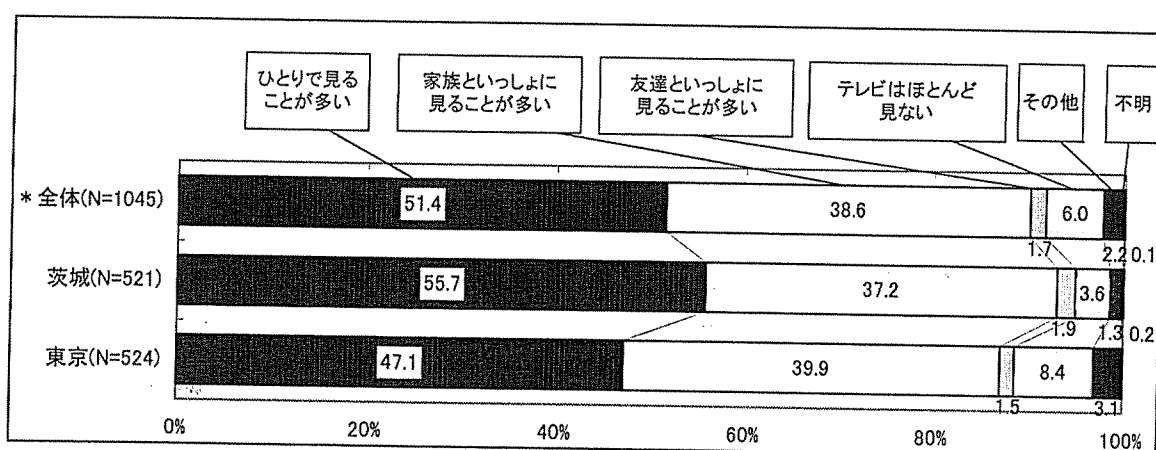
II 調査結果

1. メディア行動

(1) テレビ視聴

①一緒に見る相手

(図表1) 一緒に見る相手



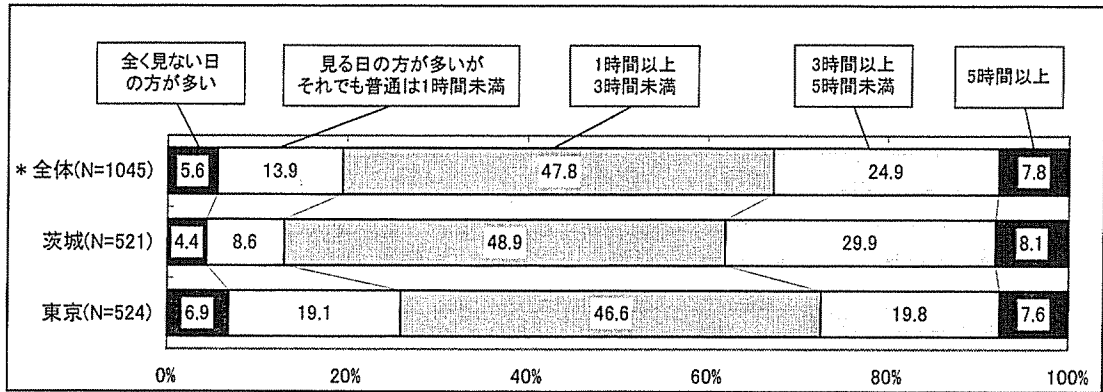
(図表2) 一緒に見る相手別高校生同士での逸脱行為の防止

	注意	示唆	祈願	放置	先生 伝達	親伝達	無関心	不明	総計
ひとりで	36.3%	25.9%	9.3%	19.7%	0.4%	0.2%	8.0%	0.2%	100.0%
家族と	42.7%	25.3%	9.7%	17.4%	0.2%	0.2%	3.5%	1.0%	100.0%
友達と	38.9%	5.6%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	100.0%
見ない	38.1%	22.2%	11.1%	17.5%	1.6%	0.0%	9.5%	0.0%	100.0%
その他	34.8%	17.4%	4.3%	17.4%	0.0%	0.0%	17.4%	8.7%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	38.9%	24.9%	9.6%	18.9%	0.4%	0.2%	6.5%	0.7%	100.0%

テレビを友達といっしょに見ることが多い高校生は、それ以外の高校生に比べて、「それとなく、万引きはいけないことだとのめかす」(示唆)の割合が低く、「やめる、やめないは本人の自由なので、放っておく」(放置)の割合が高い。これは、友達との距離が近すぎて、いわゆる傷つきたくないという意識が過剰に働くために、他人の行為に介入しない傾向が現われた結果であるように思われる。

②1日の視聴時間

(図表3) 1日の視聴時間



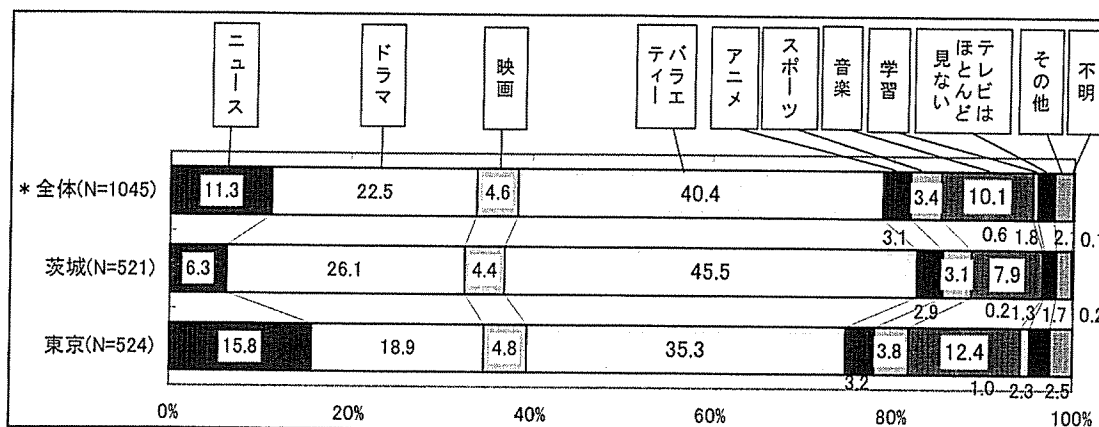
(図表4) 1日の視聴時間別親に対する負担意識

	負担感が全	負担感が多	負担感が少	負担感なし	不明	総計
見ない	20.3%	15.3%	20.3%	44.1%	0.0%	100.0%
～1時間	10.3%	17.9%	37.2%	33.8%	0.7%	100.0%
～3時間	7.8%	14.8%	42.9%	34.5%	0.0%	100.0%
～5時間	5.4%	13.5%	44.6%	36.2%	0.4%	100.0%
5時間～	9.8%	7.3%	50.0%	32.9%	0.0%	100.0%
総計	8.4%	14.4%	41.8%	35.2%	0.2%	100.0%

一日にテレビを全く見ない日の方が多い高校生は、それ以外の高校生に比べて、親の期待を負担に感じたことはないという回答、及び、親の期待をいつも負担に感じているという回答の割合が高い。すなわち、両極端の数字が高いのである。一日にテレビを全く見ない日が多い高校生は、テレビを見ないで勉強していると考えられるが、そのうち、進んで勉強している高校生は、親の期待に応えており、しかも、それを負担に思わないが、無理をして勉強している高校生は、親の期待に応えているものの、それを負担に感じていると思われる。

③テレビ視聴の番組ジャンル

(図表5) テレビ視聴の番組ジャンル



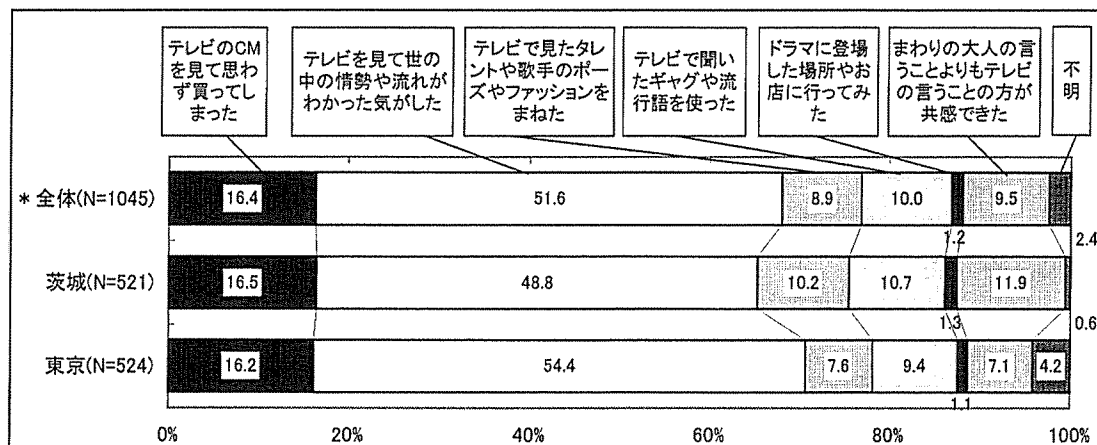
(図表6) テレビ視聴の番組ジャンル別規範意識

	万引き	いじめ	たばこ	援助交際	悪くない	不明	総計
ニュース	19.5%	60.2%	5.9%	5.9%	5.9%	2.5%	100.0%
ドラマ	6.8%	77.9%	3.8%	9.4%	1.7%	0.4%	100.0%
映画	6.3%	75.0%	4.2%	10.4%	4.2%	0.0%	100.0%
バラエティー	9.0%	78.0%	2.1%	8.1%	1.9%	0.9%	100.0%
アニメ	3.1%	65.6%	18.8%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
スポーツ	5.6%	86.1%	2.8%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
音楽	5.7%	82.1%	5.7%	4.7%	1.9%	0.0%	100.0%
学習	16.7%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
見ない	5.3%	73.7%	5.3%	10.5%	5.3%	0.0%	100.0%
その他	4.5%	77.3%	0.0%	4.5%	9.1%	4.5%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
総計	8.8%	75.6%	4.2%	7.9%	2.6%	0.9%	100.0%

学習番組をよく見る高校生は、それ以外の高校生に比べて、たばこを最も悪いと思う割合が高く、いじめを最も悪いと思う他の高校生と際立った相違を見せている。ただし、これを選んだ高校生の絶対数が少ないので、この数字には高い信頼性はないといわなければならない。むしろ、ニュース番組をよく見る高校生の数字の方に信頼が置ける。そこでは、それ以外の高校生に比べて、万引きをもっとも悪いと思う割合が高く、この層が、社会的関心や社会事象に対する問題意識が高いことがうかがえる。

④日常行動へのテレビの浸透度

(図表7) 日常行動へのテレビの浸透度



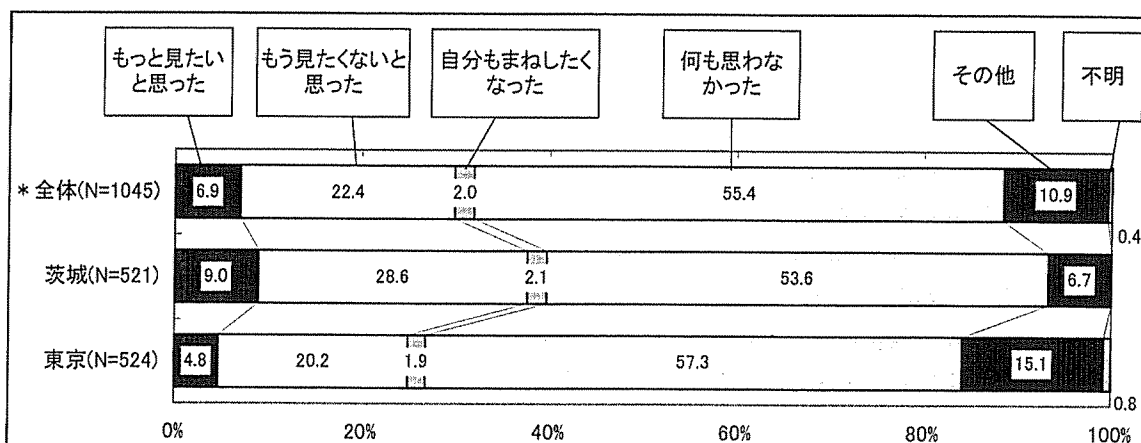
(図表8) 日常行動へのテレビの浸透度別テレビの暴力シーン

	見たい	見たくない	まねしたい	思わない	その他	不明	総計
購買	5.8%	29.2%	0.6%	52.6%	10.5%	1.2%	100.0%
知識	4.8%	25.8%	1.5%	56.4%	11.5%	0.0%	100.0%
模倣	7.5%	23.7%	3.2%	57.0%	8.6%	0.0%	100.0%
会話	12.4%	23.8%	6.7%	45.7%	10.5%	1.0%	100.0%
訪問	0.0%	23.1%	0.0%	69.2%	7.7%	0.0%	100.0%
共感	16.2%	15.2%	2.0%	56.6%	10.1%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	4.0%	0.0%	76.0%	16.0%	4.0%	100.0%
総計	6.9%	24.4%	2.0%	55.4%	10.9%	0.4%	100.0%

大人の言うことよりもテレビに共感する高校生は、テレビの暴力シーンを見たいという回答の割合が高いものの、暴力シーンをまねしたいという回答の割合が高くないので、それほど問題にする必要はないかもしれない。むしろ、テレビで聞いたギャグや流行語を使う高校生が、暴力シーンをまねしたいという回答の割合が高く、しかも、暴力シーンを見たいという回答の割合も高いので、最も潜在的問題を抱える層であると思われる。また、タレントや歌手のポーズやファッションをまねる高校生が、暴力シーンをまねしたいという回答が次に多いグループなので、まねしたい層は、まねする対象の取捨選択を適切に行う能力に乏しいといえるかもしれない。

⑤暴力シーンに対する反応

(図表 9) 暴力シーンに対する反応



(図表 10) 暴力シーンに対する反応別いじめの加害体験

	積極的 関与	義務的 関与	意識外 関与	傍観	なし	不明	総計
見たい	12.5%	2.8%	50.0%	13.9%	20.8%	0.0%	100.0%
見たくない	2.7%	6.7%	29.8%	27.5%	32.9%	0.4%	100.0%
まねしたい	14.3%	0.0%	42.9%	33.3%	9.5%	0.0%	100.0%
思わない	5.5%	4.0%	37.0%	26.1%	26.8%	0.7%	100.0%
その他	7.0%	4.4%	34.2%	22.8%	29.8%	1.8%	100.0%
不明	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	5.6%	4.6%	35.9%	25.5%	27.8%	0.7%	100.0%

暴力シーンを見たいという高校生が、それ以外の高校生に比べて、「自ら進んで、したことがある」(積極的関与)と「何となく、したことがある」(意識外関与)の割合が高く、「他の人がしていて、仕方がないので、したことがある」(義務的関与)の割合が低い。まねしたいという能動性が、いじめにも現われてしまったようだ。「何となく、したことがある」(意識外関与)の割合が次に高いのが、暴力シーンを見たいというグループであることも合わせて考えると、テレビの暴力シーンといじめとは関連があるといわざるをえない。